

観光案内

開館時間	4月1日～11月1日	11月2日～3月31日
城	月～日 9:30～18:00	土、日、祝日 12:00～17:00 12月24日と12月31日は閉館
	最終入場は各閉館時間の30分前	

ガイドツアー	4月1日～11月1日	11月2日～3月31日
城	月曜～日曜 14:00	日曜と祝日 14:00
	団体ガイドツアーは参加者との取り決めに従って実施。特別ガイドツアーはウェブ上のプログラムおよび参加者との取り決めに従って実施。	

入場料	4月1日～11月1日	11月2日～3月31日
城(音声ガイドを含む)		
大人	6.00 €	6.00 €
割引	3.00 €	3.00 €
家族	15.00 €	15.00 €
団体(20人以上)	5.40 €(1人あたり)	5.40 €(1人あたり)
	ドイツ語と英語によるオーディオガイド	

城(ガイドツアーを含む)	4月1日～11月1日	11月2日～3月31日
大人	8.00 €	8.00 €
割引	4.00 €	4.00 €
家族	20.00 €	20.00 €
団体(20人以上)	7.20 €(1人あたり)	7.20 €(1人あたり)

セット券(新城とフェルステンホイスレ)	4月1日～11月1日	11月2日～3月31日
大人	8.00 €	8.00 €
割引	4.00 €	4.00 €
家族	20.00 €	20.00 €
団体(20人以上)	7.20 €(1人あたり)	7.20 €(1人あたり)

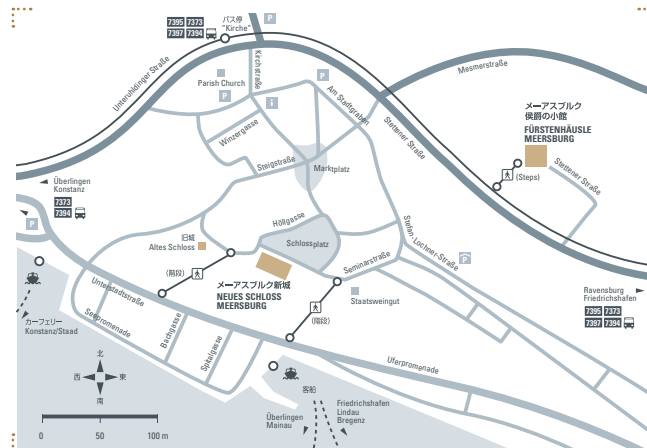
バリアフリー、入場割引、特別ガイドツアーおよび訪問に関するその他の重要なお知らせはウェブサイトに掲載しています。

お問い合わせ先

メーアスブルク新城
Schlossplatz 12
88709 Meersburg
電話 +49(0)75 32.80 79 41 - 0
FAX +49(0)75 32.80 79 41 - 19
info@neues-schloss-meersburg.de
www.neues-schloss-meersburg.de/en



アクセス



公共交通機関御利用の場合: バス路線 ラーヴェンスブルク (Ravensburg)～メーアスブルク (Meersburg)～コンスタンツ (Konstanz); フリードリヒスハーフェン (Friedrichshafen)～メーアスブルク～ユーバーリンゲン (Überlingen) / コンスタンツ、棧橋とフェリー埠頭から各徒歩15分。

全管轄文化遺産に関する情報

バーデン＝ヴュルテンベルク州立宮殿および庭園
Schlossraum 22a · 76646 Bruchsal

ホットライン +49(0)72 51.74 - 27 70
毎日8:00～20:00
(予約サービスはございません)
info@ssg.bwl.de



www.schloesser-und-gaerten.de/en



ボーデン湖畔にある
バロック様式の司教居城



メーアスブルク新城



Baden-Württemberg

STAATLICHE
SCHLÖSSER
UND GÄRTEN

かつてコンスタンツ領主司教の居城であったこの城は、バルタザール・ノイマン(Balthasar Neumann)設計による威風堂々たる吹き抜け階段や圧倒的なパノラマ景観が魅力です。

16世紀初頭、コンスタンツの領主司教は、プロテスタントに改宗したコンスタンツからメーアスブルクへその居城を移しました。1710年には、領主司教ヨハン・フランツ・シェンク・フォン・シュタウフェンベルク(Johann Franz Schenk von Stauffenberg)が旧城の東側にメーアスブルク新城の建設を開始しました。バロック時代にさらに強力となった領主としての**権威を誇る**ため、建造物はその後拡張され、華やかに改装されていきました。城のテラスから見渡すボーデン湖からアルプス山脈頂上までのパノラマ景観が、訪問者を魅了します。ボーデン湖を**眺望**できる魅力的な位置にあることから、新城は現在もメーアスブルク旧市街地の中心的存在となっています。

他に例を見ないバロック様式の居城

バルタザール・ノイマンが城内の教会と**壮大な吹き抜け階段**を設計しました。後者は南ドイツで最も重要なバロック建築物と言えます。教会は、1741年から1743年にわたって建設されました。16年後には再び城の改築が行われ、領主司教・枢機卿フ



👑 エントランスエリアと典型的なメインフロアである3階フロア間の壮大な階段

ンツ・コンラード・フォン・ロット(Franz Konrad von Rodt)枢機卿が建築士フランツ・アントン・バグナート(Franz Anton Bagnato)に、すでに老朽化した階段の建て替えを命じました。さらに、宮殿前広場に面するバロック様式のファサードが、時流に適ったロココ様式となりました。改築作業が終了し、入居可能な状態となったのは1760年代になってからのことです。厩舎と神学校が加わり、「城は帝国内の最も独特なバロック様式居城の一つ」に数えられるようになりました。

領主司教の生活

威風堂々とした吹き抜け階段を上ると、豪華な客室や私室のある2階へとたどり着きます。ここでは、領主司教の**居住文化と生活文化**が印象的に表現されています。狩猟や音楽、宮殿での祝宴などに使われた当時そのままの道具や調度品の数々、さらには、当時から有名だった博物標本室が、領主司教の18世紀の宮廷生活の空気を今に伝えています。



👑 左:新宮殿の3階フロアには豪華な部屋が並ぶ

👑 中央:「領主司教の標本室」—領主司教は熱心な収集家で、特に貝殻、カタツムリ、鉱石、化石に関心を持っていた。

👑 右:この新城は精彩な描写が施されたオリジナルの化粧漆喰で有名です。